

罪

アイン・クロム

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ほんの小さく、この世で起こり得る哀しき罪のお話。

罪

目次

罪

どこにでもある小さなお話。私はいつもそうなのだ。小さなことを気にして、大ごとを見逃して。とても小心者で。

この男は。

いつものように電車に乗り、大学から帰ろうとしていた時の話だ。高校時代の友達によく似た人物がいた。まあ、目元から下しか見えなかったのだけれども。それだけですら、とても似ていた。きつとよくあることなのだ。

例えばそれが、過去の思いびとだったのだとしても。

実際のところはただの人違い。目元を見た時、全くの別人だったのだが。その子を見かけた時、恋心というものを初めてその男は理解した。恋心とは、恋したものと、惚れられたもの、その2人以外には癒せぬ、心の痛みなのだ。それこそ、古傷なのだ。

男は未だに思っていたのだろう。いや、未だに思っていたことに気が付かされたのだろう。ほんの少し、似た口元や、鼻の形を一瞬目にしただけで、その人を思い出してしまうのだから。

恋心とは痛みだ。失恋など古傷だ。ならば。恋に落ちるとは、針山に刺されることと同義なのだろう。古傷も、恋心も全て、トラウマと何も変わらない。苦しみだけが襲って。吐き気だけがその男を苛んで。それでいて、捨てられない。

この世の本当の痛みとは。確かな人の罪とは。

誰かに恋をすることなのかもしれない。

昔、人は八つの枢要罪を。七つの大罪を定めた。大半がマイナスの感情であり、忌むべき行動であった。怒ることなかれ。欲張ることなかれ。サボることなかれ。憂うことなかれ。妬むことなかれ。傲ることなかれ。羽目を外し喰らうことなかれ。騙すことなかれ。そして、

色に堕ちることなかれ、と。

きつと罪なのだ。誰かを恋焦がれる事は。

きつと罪なのだ。伝えられぬ恋心など。

きつと…

生き地獄、とはよく言ったものである。

心中、これはこの世で結ばれないが故の純愛だ、と。誰かが言っていた事を思い出す。

ならば結ばれない恋心の果てに死を選んだ者は？純粋なる恋心の果てに死んだとしても、それは純愛ではないのだろうか？清く正しい恋心を得て、それが結ばれなかった故に死を選んで。そのものの一生は、ただの悲劇？くだらない。本当の悲劇は、結ばれず死んだ事を、ただの悲劇としてしか受け入れられない事である。

もし叶うことがあるのなら、もし神がいるのなら。私などのように穢れたどぶネズミの叶わぬ夢を叶えずに。誰かの切なく淡く、簡単に消えてしまいそうな、優しく悲しいともしびを。小さく、それでいてたった一つの特効薬しか存在しない痛みを。守り、優しく育ててあげてほしい。そしてその火が消えず。

世界を照らす、新しい光となることを。私は心からそれを願う。